

# 一栄谷の 異見私見



農協つぶしの政が  
なびた押し寄せてい  
る。先に先中はJ-A  
グループの自己改革であ  
る「営農・経済革新グラ  
ン」を決定している  
が、マスコミはこれを  
「自己改革の限界を示  
したにすぎないと嘲  
揄するとともに、規制  
改革議決はきわめて急  
進的な農業改革案を打  
ち出した。3本の改革  
の柱として農業生産  
法人、農業委員会、農  
協を取り上げ、農協の  
見直しでは、中央会制  
度の廃止、全農の株式  
会社への転換、JAの  
信用事業の農林中金・  
信連への移管等を中身  
とする「非連続的な農  
業改革」を打ち出し  
た。これらの提言も受  
けて自民党は6月初め  
にも対案をまとめるこ  
とにしており、政府は  
これらを踏まえ6月  
に改訂する成長戦略に  
「3本の改革の柱」を  
盛り込むことを想定し  
ている。

これまでも産業界・  
財界は農協批判を繰り  
返してきたが、今回は  
規制改革会議座長の金  
丸義文氏が「過去はセ  
リセットして」と語  
るように、これまでの  
歴史や経緯等は全く無  
視しての、ひたすら規  
制緩和を徹底するだけ  
の中身となっており、

その根っこにあるのは  
市場原理主義は万能で  
あるとする妄想であ  
る。農協をはじめとす  
る協同組合組織の価値  
や存在意義について傾  
聴しようとする耳はさ  
らさら持ち合わせては  
いない。

農協もたきさんの問  
題を抱え、多くの課題  
を負っていることは確  
かであるが、一方で農  
協なくして農業・農村  
の発展は困難であり、  
農協があるからこそ農

業や農村が守られてき  
たことも確かである。  
農協は産業界以来、  
対抗勢力として企業や  
資本主義の横暴を抑え  
てきた歴史を誇る。資  
本主義そのものが本質  
的矛盾を抱え込んだも  
のであり、資本主義が  
資本主義として発展し  
ていくためには、利潤  
原理によらない非市場  
的制度が不可欠であ  
り、その非市場的制度  
の核心にあるのが倫理  
性、市民社会である。  
つまり非市場的制度が

## 誇りと独自性を持つての 自己改革を

存在として、市場化  
・自由化・グローバル  
化は可能であり、資本  
主義の発展は可能であ  
る」というのが筆者の  
理解する経済学者・岩  
井克氏の資本主義論  
であり、共感するところ  
大である。資本主義  
が市場万能・新自由主  
義に走り、協同組織を  
排除してヒューマン  
化するほどに、資本  
主義の根幹が揺らぎ資  
本主義そのものが成り  
立ち得なくなるという  
本質的矛盾を抱えてい  
ることを財界側も認識  
すべきである。健全な  
協同活動あつてこそ  
経済発展である。

J-Aグループも「営  
農・経済革新プラン」  
の具体化をはかっている  
ことは当然として、  
第26回JA全国大会を  
決議した脱原発に象徴  
されるように、変化する  
時代環境に対応した  
協同活動の原点を踏ま  
えた独自の方向性を打  
ち出していくと同時に  
に、その実践方策の策  
定を徹底を図っていくか  
なくてはならない。振  
り返ってみれば2年前  
の2012年の国際協  
同組合年こそがそこし  
たターニングポイント  
とすべき好機であった  
が、農協策定やイベン  
ト実施にとまりこれ  
を逃してしまった感  
がある。一段と農協包囲  
が強まる今をフストチ  
ヤンスと位置づけ、組  
合員の生産と暮らし、  
地域の再生・活性化の  
ために、誇りをもつて  
組織活動の見直し事業  
機能の十全なる發揮に  
取り組み、これをリ  
ドしていくことを望み  
たい。(農的社會学サイ  
ンス研究所代表)